蒙を啓く

学校だより３月号　2023.3.24

福 井 市 啓 蒙 小 学 校

福井市開発1-1008　TEL：54-2819　FAX：54-9769　E-mail：keimo-e@fukui-city.ed.jp

学校だよりは、啓蒙小学校ホームページでもご覧いただけます。http://www.fukui-city.ed.jp/keimou-e/

本日、令和４年度の修了式を行いました。これで卒業生68名を含めた全校児童397名が、無事一年間の学習を終えることができました。保護者の皆様、地域の皆様のお力添えのおかげです。ありがとうございました。

さて、４月１日からは、学校でもマスク着用が個人の判断にまかされます。マスクなしの生活に一日も早く慣れて、笑顔いっぱいの啓蒙小学校を目指していきたいです。令和５年度もどうぞよろしくお願いします。

１　「式辞より（卒業生に向けての言葉を抜粋）」　卒業証書授与式：3月14日（火）

啓蒙小学校を巣立っていく６８名のみなさん、ご卒業おめでとうございます。今、みなさん一人一人に渡した卒業証書には、６年間のみなさんの学んだこと、経験したこと、そして培った力のすべてが込められています。それと同時に、これまで温かく見守ってくださったご家族や地域の方々、教え導いてくださった先生方の深い愛情が込められている、とても重みのあるものです。これからもお世話になった方々に対する、感謝の気持ちを忘れずにいてほしいと思います。

さて、小学校を卒業するみなさんに、植物の竹の話をします。

竹の幹には、一定の間隔でリング状に盛り上がっている節があり、節のある部分を節目といいます。この節には大切な役目があります。みなさんは知っていますか？

タケノコの時からすでに、６０個ほど節をもつ竹は、先端の部分だけでなく、一つ一つの節に成長する部分があります。しかも、すべての節が一斉に成長するため、一日に１メートル以上成長することもあります。竹は節があるおかげでぐんぐん成長することができるのです。また、竹には、どんなに強い風に押し倒されても、折れることなく、また起き上がってくるという、しなやかさとたくましさをもっています。竹よりも太くて大きな木や、セメントで作られた電柱がなぎ倒されるような強風が吹いても、竹はまったく平気です。こちらも、中が空洞になっている節の構造が大きく関わっています。

このように、竹にとって、節はなくてはならないものなのです。

竹と同じく、私たちの人生にもいくつかの節目があります。そして、小学校を卒業することは、とても大きな節目です。ぜひ、みなさんには、この機会に六年間をふり返り、自分の成長を確かめ、次の節目に向かって、自信をもって歩み始めてほしいです。

３年ぶりに県外を訪れた修学旅行。友達と一緒に生活する楽しさを改めて感じることができました。力を、そして知恵を合わせて作りあげた体育大会の応援。すばらしかったです。リーダーとして下級生を引っ張ってきた縦割り活動、清掃活動、集団登校、委員会活動。みなさんのがんばりがこの啓蒙小学校を支えてくれました。６年生として活動した一年間をふり返っただけでも、たくさんの成長が感じられます。

次の節目となる中学校生活は、決して楽しいことばかりではなく、ときには面倒なことや苦しいことにもぶつかるでしょう。そんなとき、この啓蒙小学校で培ってきたことを土台にして、竹のようにしなやかに、たくましく成長していってほしいです。

2　教職員人事異動：退職・異動する先生方のメッセージ

　この度定年を迎え、３８年の教員生活にピリオドを打たせていただくことになりました。２２歳で教員になってから１０校の小中学校にお世話になりましたが、最後はこの啓蒙小学校で４年間お世話になりました。教頭としての４年間でしたので、保護者の皆様にご協力いただいたのはもちろんのこと、啓蒙地区の方々にも様々な場面でお会いする機会があり、お話をさせていただく度に温かく接してくださり、大いに勇気づけられて最後まで仕事を務め上げることができました。本当にありがとうございました。今後の啓蒙小学校と啓蒙地区の発展を願いながら、お礼の言葉にかえさせていただきます。

教頭：菅谷　浩一

　啓蒙小学校では、２年間お世話になりました。明るい挨拶の声と子供たちの笑顔に励まされ、毎日を過ごしました。自主性のある子や自分の決めたことをきっちりする子、友達のことを気遣う子などいろいろな個性をもつ子がたくさんいました。自分のよさを伸ばしたり、友達を認め合ったりして成長していく子供たちと一緒に過ごすことができて、本当にうれしかったです。４月からは第２の人生を歩むことになります。これからの啓蒙小学校と皆様のご発展を心よりお祈りします。今まで、本当にありがとうございました。　６年担任：藤本　玲子

　この啓蒙小学校に着任して、早、7年になります。着任早々、迷路みたいな校舎の中を何度も迷ったのを覚えています。そんな時は、いつも元気な子供たちが、「先生、こっちですよ。」と教えてくれました。気さくで明るくて、とっても元気な子供たちだなあと思いました。また、見守り隊や花壇のお世話をしてくださる方々など、いつも温かく小学校を見守ってくださっている方々に囲まれて、ステキな学校だなあと思いました。
　この度、定年退職となりました。最後の年を、この啓蒙小学校で終えられることは、この上も無い幸せです。子供たちに恵まれ、同僚の職員に恵まれ、保護者の方々に恵まれ、地域の方々に恵まれ、無事38年の教員生活を終えることができます。本当にお世話になりありがとうございました。　２年担任：桑原　礼子

　元気で明るい子供たち、親切で子供思いの地域の方々。１年間という短い在校ではありましたが、思い浮かぶのは授業や廊下での子供たちが楽しげに過ごしている景色と空気です。コロナ禍の制限の中でも毎日を張り切って過ごそうとする子供たちを見て、どれだけ多くの元気をもらったか分かりません。自分の中でもすごく好きな学校になった啓蒙小学校のますますの発展を祈っています。短い間ではありましたが、これまで本当にありがとうございました。　教務主任：小野　直樹

　啓蒙小学校では、8年間お世話になりました。毎日の授業、いろいろな学校行事、校外学習などで啓蒙っ子のみなさんの一生懸命がんばる姿をたくさん見ることができました。少しくらい体調が悪くても、学校に来てみなさんの顔を見ると、すぐにそんなことは忘れて元気になっていました。いつもみなさんからパワーをもらっていたからだと思います。本当にありがとうございました。これからも、素直で明るく、どんな場面でも一生懸命がんばる啓蒙っ子でいてください。

１年担任・特別支援講師：大久保登喜恵

　調理技師として採用されて31年間、長いようでもあり、あっという間だったような気がします。最初の26年間は、ふれ愛園という老人ホームと児童養護施設で食事を提供していました。その後、学校給食の方へ異動となり、4年前から啓蒙小学校で勤務させていただくことになりました。学校給食での経験は浅く、慣れない環境での仕事は戸惑うばかりで何度も心が折れそうになりました。でも、啓蒙の元気な子供たちにたくさんのパワーをいただきました。「いつも美味しい給食を作ってくれてありがとうございます」「いつもご苦労様です」など、声をかけてくれる子供たち。こちらこそありがとうございます。長い職員生活の中で、最後が啓蒙小学校で本当によかったと心から思います。啓蒙での4年間は私の大切な宝物になりました。本当にありがとうございました。

調理技師：岩本早百合

　３年前、初めての小学校勤務にドキドキしていた頃、児童の皆さんが元気に挨拶してくれたり、保護者や地域の方々が温かく迎えてくださったりしてくれたことで、とても嬉しくなったことを覚えています。３年間という短い間でしたが、毎日子供たちと関わる中で、多くのことを学ぶことができました。４月からはこれまでとは違った勤務地となりますが、啓蒙小学校での学びを生かしながら、新しい挑戦を継続していければと思います。３年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。　４年担任：松田　祐樹

　今年度、啓蒙小学校にお世話になることになって、早くも１年が過ぎました。２年生、３年生、４年生、５年生、６年生の授業をさせていただきました。この１年で感じたことは、啓蒙小学校の子供たちは、集中して学習や活動に取り組む子が多いということです。これからも、自分を高めるためにいろいろなことに集中してがんばってほしいと思います。子供たちを支えてくださった保護者の皆様に、心から感謝いたします。１年間お世話になりありがとうございました。　副担任：小林　邦義

　この１年間、週２日の啓蒙小での勤務ではありましたが、とても中身が濃いものでした。通級指導で関わる子は限られていましたが、どの子も頑張ってくれて嬉しく思います。“恐竜”の話をいくつかの学年でできて、しっかり聴いて、たくさんの質問をしてくれたのも、よい思い出になりました。啓蒙っ子には、人懐っこくて元気で、何かをする時にはパワーを感じます。これからも仲間と共にひたむきな姿を見せてほしいです。ありがとうございました。　通級指導：小島　啓市

　春は出会いの季節であるとともに、別れの季節でもあります。今回の異動で９名の先生方が本校から旅立たれます。いずれの先生も本校の子供たちのために一生懸命に力を尽くしてくれました。本当にありがとうございました。新天地でのご活躍を祈っています。

　来年度は１年生７５名を迎え、全校児童403名でスタートする予定です。